

●かごしま焚火研究会発足の経緯と目的

焚火が直接的・間接的にもたらす効果効能は、「癒し」や「学び」や「高揚」、そして「生きる」といった他のコンテンツでは得難いものばかりである。一方で近年は生活環境や居住空間の変化により、大人も子どもも直接火を見たり、火を起こす薪を成形するために刃物を取り扱ったりする機会が減少している。そこで、焚火から学ぶ様々なことを子どもたちに提供する団体を組織することとし、2013年に「かごしま焚火研究会」を発足させた。

本会の活動等を通して、ルールに従うこと、協調性や危険予測、安全管理能力を身に付け、家族や仲間と野外で過ごすことでその土地の季節を感じ、自然を愛でる心を育むことを最大の目的としている。また、参加者を指導する立場の者のスキルアップを継続的に行うほか、施設の下見を行って最新の情報を公開するようになっている。

2020年7月末現在で、本会の会員は世帯主数だけで1115名。第2次アウトドアブームの追い風で地元メディアにも取り上げられるなどしたため、現在も鹿児島県内外に会員が広まりつつある。現時点では法人化を予定しておらず、有志による会の運営がなされている。

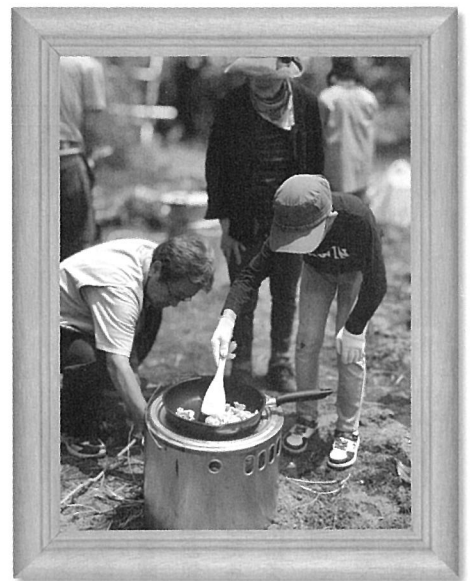


伊佐市に横断幕を用意していただき、デイキャンプイベントを開催。

まちむら発見②

郷中教育と地域を生かした 野外活動の推進

鹿児島県鹿児島市 かごしま焚火研究会



火を使って調理体験を行う

●活動の特長

(1)あえて地方の会場を選定する

焚火ができる施設は限られてはいるものの、普段子どもたちが足を伸ばせない自然豊かな地域にあることが多いため、会場を選定する際には、可能な限りへき地を選定するようにしている。

施設が所在する市町村の協力を得て、

- ①体験活動の中に地域の特産品を盛り込む
- ②近隣の観光スポットを案内する
- ③地域の人々との交流の場を設ける
- ④活動前後に地域の情報を集中的に発信する
- ⑤活動後は参加者の意見等を集約して地域にフィードバックする

などとして、活動以外での交流人口増を目標として地域振興を念頭に置いている。生活している環境から物理的に遠い地を知り足を運ぶことを重ねることで、

鹿児島県全体に対する愛着がわくと考えている。

(2)鹿児島県の伝統的な教育「郷中教育」を取り入れる

本会の活動は、年長者が年少者に指導をし、世話をし、話し合いを重ねてより良いものを生み出すという鹿児島島の伝統的な教育「郷中（ごじゅう）教育」の要素を取り入れている。

活動に参加する人たちの形態は1人1大家族と様々である。特に保護者が1人で複数の子どもを連れて参加する家族の場合は子ども安全管理に不安が生じるので、他の参加者が自分の子どもたちと同じように安全管理を手伝うようにしている。子どもたち同士は次第に仲が良くなり、一緒に遊び、煮炊きしたものを分け合うなど、世代間交流が図れるようになっていく。

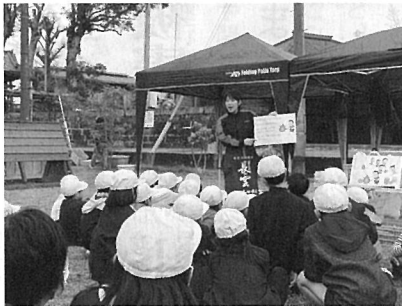
(3)火に対する畏敬の念を育む

私たちの生活では、暑さや寒さ、大雨や日照り、台風や災害などで自然の脅威を知ることができる。

本会の活動では、子どもたちが漠然と抱いている自然への畏敬の念に加え、火に対する畏敬の心を持たせるようにしている。食事も、明かりも、暖を取ることも、風呂を沸かして体を清潔に保つことも、火があれば可能であることを体感する活動を提供するようにしている。火を起こすときに着火剤やライターなどを用いることはさせず、マッチを擦って小枝や薪だけで火を起こさせているのも、火に対する正しい向き合い方を体験してもらうためである。

(4)労働から得られる達成感や成果物に喜びを味わう

調理体験や五右衛門風呂の入浴体験などは、成果が



体験だけでなく自分の行動の予測や振り返りを 火に対する正しい向き合い方を体験する
行う

よく表れる活動なので積極的に取り入れるようにしている。この他に、調理したものを盛り付ける皿や茶碗、箸を竹で作らせたり、調理で使う食材を取りに行かせたりする活動を地域の協力で取り入れるようにし、体験活動に紐付けた達成感を提供するように心がけている。

この達成感を味わうまでに、必要な道具の準備、危険予測や安全管理、仕上がりイメージを描くなど、子どもたちなりに高度な過程を経ている。その先にある「美味しかった」「気持ちよかった」「きれいにできた」という成功例を重ね、自然の中で遊ぶ喜びを深めていくようにしている。

●今後の展開

少ない道具の中で快適に過ごすにはどのような乗り方よいか、という思考は、困難な局面をどのように乗り越えるかというポジティブな思考につながる。野外自然活動は楽しいキャンプに過ぎないが、この経験を子どものうちから一度でも体験している人は、物事の考え方に大きな影響を与えるであろうと実感しているのは、実際に幼少期に積極的に野外活動を行ってきた我々の意見である。

野外活動の中には、餅つきや味噌づくり、伝統的な地域の料理や食材など、食文化に関わるものも多い。南北600kmにおよぶ離島を合わせた多様な文化が残る鹿児島独自の食を、食べ方の作法もあわせて学べるように、他の団体等と連携しながら本会の活動に深みを持たせていくものとした。

(かごしま焚火研究会会長 本田静)